

会議録（案）

会議の名称	平成30年度 第4回西東京市文化芸術振興推進委員会
開催日時	平成31年1月28日（月） 午後7時から午後9時00分まで
開催場所	防災センター・保谷保健福祉総合センター6階 関係機関連絡室
出席者	委員：廣瀬委員長、田中副委員長、藤井委員、島田委員、中平委員、中村委員、中野委員、青木委員、島田委員 （欠席：葛西委員、田邊委員） 事務局：田中文化振興課長、栗林文化振興係長、圓田文化振興係主事、
議題	1 第3回西東京市文化芸術振興推進委員会会議録（案）の確認について 2 第2期文化芸術振興計画素案のための意見募集について 3 第2期文化芸術振興計画（素案）について 4 今後のスケジュールについて 5 「平成30年度施策・事業評価（平成29年度分）」調査結果について 6 その他
会議資料の名称	【当日机上配布資料】 資料1 第3回西東京市文化芸術振興推進委員会会議録（案） 資料2 パブリックコメントの意見について 資料3 市民説明会の意見について 資料4 ポスターセッションの意見について 資料5 第2期文化芸術振興計画（素案） 資料6 平成30年度 第2期文化芸術振興計画 策定スケジュール 資料7 「平成30年度施策・事業評価（平成29年度分）」評価結果報告書
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input checked="" type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>1 第3回西東京市文化芸術振興推進委員会会議録（案）の確認について ・事務局より、資料1に沿って、前回の委員会会議録について説明を行った。</p> <p>2 第2期文化芸術振興計画素案のための意見募集について ・事務局より、資料2～4に沿って、パブリックコメント等の意見について説明を行った。</p> <p>○委員 ・パブリックコメント結果の数としては一般的に多いのか。</p>	

○事務局

- ・現行計画の策定時に行ったときよりは少なかったようである。現状の取組についても意見をいただき、また、市民説明会、ポスターセッションを通して参考になる意見をいただいたと考えている。

○事務局

- ・教育などの分野は一般的に市民の関心が高いなどの傾向があり、防災など時事的に関心が高まるものもあるため、パブリックコメントも多くなる。

○委員

- ・パブリックコメントの質問に対する回答は本人に返しているのか。

○事務局

- ・パブリックコメントの結果として、委員の皆様からもご意見をいただき、修正等を反映したうえで3月1日号の市報及び市ホームページで公表予定である。

○委員

- ・パブリックコメントはよい意見があると思った。回答の中で、「関係部署と協議しながら検討していく」としているのは、どのくらい言葉の重みがあるのか。

○事務局

- ・例えば、パブリックコメントの2つ目の意見の「ふれあいのこみち」に関するご意見は、文化財保護の計画に関連するものであり、文化振興課から所管する他部署に働きかけて検討することとなる。

○委員

- ・必ず一度は協議を行うということか。結果はどこかで反映されるのか。

○事務局

- ・改めて市ホームページ等で公表するものではないが、推進委員会に対しては働きかけた結果はお知らせしたい。

○委員

- ・民意がどのくらい反映されているのかが市民の気になるところだと思う。パブリックコメントをしても、フィードバックしていく仕組みとして、検討の結果を確認できるようにしていくべきだと思う。パブリックコメントもポスターセッションも多い数ではない。

○委員長

- ・今の意見の対応として、庁内の調整内容について報告していただけるとよい。

○委員

- ・ポスターセッションは幅広い年齢と対象に聞くことができているのか。

○事務局

- ・幅広くご意見をいただきたいと考えて実施したが、実際には会場で立ち止まって話を聞いていただいた方である。実際には男女ともに30～70歳が中心であったと思う。

○委員

- ・パブリックコメントは市の回答があるが、ポスターセッションは意見を聞くだけになるのか。

○事務局

- ・パブリックコメントの意見は住所、氏名をいただいたうえでご意見をいただき、検討結果を回答させていただくものとして行っているものである。不特定多数の方にいただいた意見は報告として公表させていただく予定である。

○委員

- ・パブリックコメントの募集はどのような方法で行ったのか。

○事務局

- ・保谷庁舎、田無庁舎の情報公開コーナー、文化振興課執務室に計画素案等の冊子を置いているほか、計画素案等をホームページ上にアップさせていただき、メール、ファクス、窓口への持ち込みなどで意見をいただくような手続きとなっている。

○委員

- ・パブリックコメントの期間を1か月設けたにもかかわらず、4件のみというのは少ないのではないか。

○事務局

- ・同時期に行ったパブリックコメントは複数あり、本計画よりも意見が多かったものもあるが、方法としては同じである。今回はポスターセッションなどを行うことで、計画の策定についても知ってもらう機会を設けたが、意見としては少ない結果になった。

○委員

- ・インターネットで閲覧する方法は、一般市民にはハードルが高かったようにも思う。

○事務局

- ・ポスターセッションを行った際にも概要版とパブリックコメントについての案内を配布し、周知させていただいた。

○委員

- ・ポスターセッションでいただいた意見は保谷こもれびホールについての意見を多くいただいているため、改めて確認させていただきたい。

3 第2期文化芸術振興計画（素案）について

- ・事務局より、資料5に沿って、計画素案の修正点について説明を行った。

○委員

- ・カタカナ語を和語にしているということだったが、6歳の子どもでも、お年寄りでも分かるようにするべきだと思う。28ページにSNSについて説明があるが説明文自体が難しいと思う。

○委員長

- ・インターネットなどに慣れていない年代でも分かりやすい表現に修正してほしい。

○事務局

- ・Webサイトをホームページという言葉に置き換えるなど言葉を分かりやすくしたい。

○委員

- ・今の小学生であれば、理解しなくても触れられていると思うが、誰のための説明なのかを考慮した説明にしてほしい。

○委員

- ・26ページ「対話による美術鑑賞」は施策2の取組例にあるが、施策3の方が適切ではないか。

○事務局

- ・現状では、小学生を中心とした対象となっているが、今後は多世代に対して取組を展開していきたいと考えているため、施策2としている。

○委員

- ・30ページのボランティアについてはどのように捉えているのか。先ほど「人を使う」という表現について意見があったが、ボランティアの本来の意味としては、自主的に活動に参加することを指していると思う。

○事務局

- ・基本的には自主性を重んじており、「人を使う」という意味では書いていないが、本意ではない捉え方をされてしまうことがあるため、表現について見直すべきか考えている。

○委員

- ・ボランティアを市としてどのような意味合いで使っているのか、SNSなどの用語よりも解説が必要なのではないか。人によって捉え方が異なるようである。
- ・市民文化祭でも若い世代に参加してもらおうと高校生のボランティアを募り、ボランティアを受け入れる立場の団体にボランティア内容を考えてもらうよう説明を行った。最近では、高校生はボランティアの活動を一つの経験や実績として考えており、大学受験や推薦などに有効であるようである。
- ・「基本方針3 文化芸術を担う人づくり」の中の「文化芸術を支える人材の育成と活用」の中でもボランティアについての取組があるが、文化振興課だけで取り組むのではなく、社会教育課などの得意な部署があるのではないか。

○委員長

- ・ボランティアの解釈も色々あるようなので、整理していただけるとよい。

○委員

- ・近隣市を見ていると様々な取組が行われていると感じる。37ページの財源の確保について、西東京市として文化芸術に関わる予算があるのかないのか。それによってどのように活用していくのか考え方が異なると思う。

○事務局

- ・一般財源から捻出している各市の考え方に沿って予算が設けられている。やはり生命に関することが最も重要度が高く、次いで防災や福祉、子育て対策や民生費など優先的な施策がある。その中において、スポーツや文化をどのように活性化していくのが課題となるが、民生費に比べると重要度は下がってしまう。
- ・財源の確保に記載してある文化芸術振興基金は、保谷こもれびホールが指定管理者制度を導入する時に、財団の財源を文化芸術振興基金としたものがベースとなっており、1億円ほどある。最近では保谷こもれびホールの収益金の半分が追加されている。基金の使い道として現在は「対話による美術鑑賞」のみだが、市域に広く文化芸術事業を行き渡らせるような取組を考えていかなければいけないと考えている。

○委員

- ・民生費などの重要度が高いことは理解しているが、計画としてどのように考えているのか確認したかった。

○事務局

- ・計画や条例を定めて取り組もうとしている自治体はまだ少ないため、そこは誇れるところであると考えている。

4 今後のスケジュールについて

- ・事務局より、今後のスケジュールについて説明を行った。

5 「平成30年度施策・事業評価(平成29年度分)」調査結果について

○委員

- ・他の課についても見ていくのか。

○事務局

- ・庁内の文化に関する取組をまとめているため、文化振興課以外の取組も含めてご意見をいただきたい。

○委員

- ・この調査結果は市民向けに公表しているのか。

○事務局

- ・取りまとめを行った後に公表予定としている。

《基本方針1「参加のきっかけづくり」－施策1 多様なメディアによる情報提供①》

○委員

- ・【1-1-3】ICTの活用はどのような取組を意味しているのか。

○事務局

- ・ホームページやツイッター、フェイスブックなどを活用した情報発信についての取組を指している。

○委員

- ・市のフェイスブックによる情報発信の投稿数とアクセス数が減少した理由は何か。

○事務局

- ・確認できていない。

○委員長

- ・減少した理由について記載していただけるとよい。

○委員

- ・自己評価は庁内ではどのように使われているのか。あいまいな評価のように思える。

○事務局

- ・自己評価はあくまで取組の所管課による評価である。本委員会や庁内委員会のコメントをフィードバックして今後の施策に活かしていくことを考えている。

○副委員長

- ・今委員会は短期間で見て意見をいただいているため、一度持ち帰った上で追加の意見がある場合にはメール等で事務局に送っていただきたいと思う。

《基本方針1「参加のきっかけづくり」－施策2 幅広い年齢層が参加できる体験・鑑賞機会の充実②》

○委員

- ・【1-2-3】「①西東京市民会館のあり方について検討」は、今後の方針の結論を出したということで評価Aにしているのか。

○事務局

- ・計画28ページの基本方針2の施策2の4つ目にあるように、西東京市民会館の閉館後の対応について記載している。

○委員

- ・今後の計画にはどのように継承されていくのか。

○事務局

- ・必要な活動場所を確保しながら、今後対応していくこととなる。

○委員

- ・【1-2-1】でアンケートなどを行うことでニーズを把握し、【1-2-2】でその結果を踏まえた事業を実施することが連動していると思ったが、【1-2-2】③において事業の参加者数が実績となるのか。

○事務局

- ・アンケートを取った結果を反映して事業を行っているということが読み取れないというご指摘であると思う。

○委員

- ・来場者に対してアンケートを取っているが、時期的にもニーズに基づく実施になっているのかが分からない。アンケートの結果が示され、その結果を受けた事業計画を立てるということであれば理解できるが、連動性が分かりにくいと感じた。

○事務局

- ・多摩六都フェアにおいては、どのような事業がよいか、どんな事業であれば参加したいかなどのアンケートを実施し、次の事業計画の参考とさせていただいていることもあるが、実績として表現できていないため、検討させていただく。

○委員

- ・多摩六都フェアの事業については、毎年変わっていると思う。

○事務局

- ・昨年度までは映画制作ワークショップを実施し、今年度は圏域に在住、在学の障害のある中高生を対象としたパラアート制作ワークショップと圏域に在住、在学、在勤で障害のある方から応募した作品を圏域5市で展覧会を実施するなど、変化をつけながら実施している。

○委員

- ・文化振興課は市民文化祭や多摩六都フェアの企画・立案に関わっているのか。

○事務局

- ・事業によって異なるが、市民文化祭であれば、市民文化祭実行委員会と市の共催事業であるため、ともに検討している。

○委員

- ・アンケート結果などから得た民意を実行委員会に報告しながら、実施するテーマなどを働きかけたりするのか。

○委員

- ・アンケート内容は実行委員会で相談して決定し、来場者の回答は実行員会で結果を共有している。出し物や運営についてのニーズなどがあり、次回の文化祭に活かしていきたいと考えている。

○事務局

- ・ 事業によって、実行委員会が主体となっている場合と、文化振興課が主体となっている場合があり、実行委員会からは報告書によりアンケートの集計結果と合わせて報告いただき、フィードバックしている。
- ・ 多摩六都フェアも委託事業者に事業を依頼しているが、企画・立案から文化振興課が関わり、同様に報告書で振り返りを行っている。対話による美術鑑賞なども同様である。アンケートなどを含め、事業を見直しながら実施している状況である。

○委員

- ・ 市民文化祭や市民まつりは、市が文化芸術振興を行う方向性として示している「文化芸術振興計画」を感じるができない。計画を策定してもそれを発揮する取組がなければ意味がないのではないかと思う。
- ・ 計画に基づいて、民間などと連携しながら、企画・立案できるような場があるとよい。

○副委員長

- ・ 全体の市の計画を事業として反映する仕組みづくりがあった方がよいというご意見である。

○委員

- ・ 【1-2-1】 「①子供のニーズを把握」で子育て支援課はアンケート調査等を実施しなかったということだが、実施しなかった理由は何か具体的でない。
- ・ 【1-2-3】 「③公共施設の充実」で実施しているにも関わらず、B評価である意図が分からないため、根拠が見えるように資料を作成いただけるとよい。

○副委員長

- ・ 実施しなかった理由はもう少し具体的に書いていただけるとよい。

《基本方針1「参加のきっかけづくり」－施策3 子供達の参加の機会の充実③》

○委員

- ・ 【1-3-2】 「①校内学芸的行事」について、子どもが通う小学校では展覧会も学芸会も合唱コンクールも実施しているが、来年度から学芸会は3年に1回に縮小することだった。6年間の間に2回しか演劇を実施しないことになり、1年に1回の行事となるため、大きな機会損失であると思う。

○副委員長

- ・ 今後の展開としては、平成30年度も継続して実施していくとある。

○事務局

- ・ 現時点では学校の取組について情報が無いため、確認させていただく。

○委員

- ・ 演劇や合唱、展覧会など3年に1回ずつ、各2回経験できていたと思う。

○事務局

- ・情報が確認できていないが、他市でも音楽祭や学芸祭を交互に行うなどしている。近年では、学校でもオリンピック・パラリンピック推進事業など新たな推進事業が追加され、調整必要な場合も考えられる。ご意見は所管課にフィードバックさせていただく。

○委員

- ・各学校で決めることができ、学芸会でなく、学習発表会にしている区部もあるようである。学芸会としては教科の時数として取れない課題がある。

《基本方針 1 「参加のきっかけづくり」－施策 4 個人及び団体活動のきっかけづくり
④》

○委員

- ・市民まつりは昨年の来場者よりも 5 万人程減少している。

○委員

- ・【1-4-1】「③行政による事業」の「日本の文化体験フェス」の学生・外国人住民等の学生は留学生という意味か。

○事務局

- ・留学生ではなく、小中学生や外国人の方あわせた人数を示している。

○委員

- ・1,5010人は表記がおかしいので確認していただきたい。

6 その他

- ・事務局より、次回の委員会は 2 月 25 日（月）午後 7 時より行うことを説明した。また、3 月の委員会については、3 月 15 日か 27 日を候補日とし、日程調整の上、連絡することを説明した。

以上

《閉会》